

北海道医療新聞

1月1日
2023年・増刊
毎週月曜日発行
年間購読料22,000円
(前納/税込)
発行所
株式会社北海道医療新聞社
〒060-0042
札幌市中央区大通西6丁目
(北海道医師会館)
TEL 011(221)7777
www.medim.co.jp

元氣からはじめます。
中道リリース
本社：札幌市中央区北1東3
札幌(011) 280-2171

新春特集号
第3部

新春随想

「帰ってきただ木田金次郎」 総まとめ

佐川 昭

今回の木田金次郎画伯の手による「ホリカップの断崖」の絵の顛末は結局、木田金次郎美術館に収めることで決着を迎えました。

話の流れをまとめておこう！
□ □ □
始まりは、昔から通ってくれている患者のSさんだった。外来で当クリニックスオリジナルの誕生カドを渡す時、個人情報ながら生誕地を聞いてみた。すると岩内町だという。私の記憶にある岩内といえは、戦後の大火と、ここを舞台にした映画「飢餓海峡」くらいだ。ところが彼女によれば、町民が誇る木田金次郎美術館という立派な施設があるとのこと。
それを聞いて、そういえば母の字で金次郎と書いてある大きな紙包みに覆われた絵が、昔から我が家の押し入れにしまいい込んであるの思い出した。購入したのか寄贈されたのかは分からないが、おそらく父が手に入れたものだ。早速



岩内に「原野」した作品たち。



引つ張り出してみると、海岸に迫る崖が描かれており Kojiro Kida とサインがある。それを話すと彼女は、同美術館の図録を持参してくれた。何とそこにそっくりな絵が載っていた！これは驚きだ！金次郎は全く同じ場面を2つ描いて残したのだ。違いは縦長の絵か横長の絵か、ということだけ。これは金次郎がわざと縦と横で描いたのだと私は感じた。全く同じに描いても面白いのだ！どこか違うところを作りたかったのだ！何と小癪な金次郎さんなのか！面白い人だ！これだけでも魅力

満載だ！
こうして物語は動き始めた。私はこのことを、「世紀の大発見！」と題して2021年夏の本紙緑陰随想に投稿した。というのも「ファンゴッホの寝室」や「モネの日傘をさす女」など、西洋の大家が同じような絵をいくつか描いているのを知っていたからだ。金次郎さんも少し遊び心でやってみたのかも知れない。しかしたぐさもある彼の絵の中でこのような経緯をもつ作品は他になく、まさにこの「ホリカップの断崖」のみなのだ。しかも先の図録に載っていたものはどなたかの持ち物で、美術館に以前から飾ってある。私所有の絵はこれまで埋没していたが、今回をきっかけに目の見ることになったのだ。Sさんとの話がなければ、今も埋もれたままだった。人との出会いや交流がいかに大事かを考えさせられた。

それはさておき、この貴重な出来事を広く知ってもらいたいと思っていたところ、NHKにお勤めの患者Iさんご主人の目に留まった。そして1年近いご尽力の末、7月8分の番組にまとめてくださり、2022年7月30日(土)7時30分からの

NHK「おはよう北海道土曜プラス」の中で放送していただけたのである。これはそう簡単には起こりえない、とてもとても貴重な経験だった。
実はその番組の制作段階で、その方のご手配により、絵の鑑定のため木田金次郎美術館の岡部卓館長が私のクリニックスに來られた。その結果、本人の筆跡による署名と「S.S.K.30」との書き込みがあり、本人の作品であると鑑定していただいた。

さらには驚くことに、その美術館で「帰ってきた木田金次郎」と銘打った展覧会を7月から4か月間開催することになり、そこにこの絵も展示したいとの申し出を受けた。私は快諾した。
7月2日、美術館を訪れ展覧会を拝見した。「帰ってきた」数多くの木田作品が飾られる中、一番最後のコーナーに私所有の絵と例の絵の2点が丁寧に飾られてあった。ついに「ホリカップの断崖」の2つ絵がこの美術館で並べて展示されたのだ。これは私にとって願ってもないことが起きた奇跡の瞬間だった！「世紀の大発見！」を本紙に投稿したお陰で、このような素晴らしいことが起こったのだ！

「金次郎さん！待って下さい！まだまだ縁は切りませんよ！」
(佐川昭リウマチクリニックス)

「木田金次郎美術館」ニュース2022秋VOL・105」では、この経過を分かりやすく掲載していただいた上、同誌表紙もこの絵で飾ってくださいました。重ねて感謝申し上げます。
実は金次郎さんの絵については、未解決の「わくわく」がまだまだ残っており、私はこれからもその謎解きに向けて旅を続けるつもりです。

今回の経過から、我が家にあつた作品は、もう1つの作品と共に少しでも多くの人に見ていただけたらとの思いで、美術館に寄贈することにしました。読者諸兄姉もぜひ岩内まで足をお運び頂き、2つの作品が出合った経緯などを踏まえ鑑賞していただければ、金次郎さまも喜んでくれるのではないかと思います。「や」つと私の2つの作品が帰ってきて皆が見られるようになったか！ よしよし！と……。

ここまでのストーリーがNHKで放送